

水平線【院長コラム 2026 年 8 月】

知識と知恵、医学と医療

知っていたらできることはあるが、それだけではできないこともある。前者の方が圧倒的に多いが、後者は教えられることが多い。

例えば、受付や相談に対して「〇〇マニュアル」が作られる。これは誰でもその通りにやれば最低限のレベルは保証される、というものだ。多くの場合それでうまくいくのだが、マニュアルにない聞き方をされると途端に対応できず、互いの信頼関係が損なわれることがある。こんな時には少し相手の考えを汲んだ対応をすることで問題を避けられる事が多い。「マニュアル」を知識、「相手の考えを汲んだ対応」を知恵と置き換えれば、知恵は問題を回避するための工夫であることがわかる。

医療の分野でもよく似たことがある。勉強して得た「医学知識」だけでは患者さんを治療できない。年齢や元気さ、環境、本人や家族の考え方などは多様であるため、知識に加えてこれらを総合し折り合いをつけて治療することが「医療（知恵）」と呼ばれる。良い医療には様々な医療職がかかわるので「多職種協働医療」といわれる。知恵が必要なのは医師のみではない。

知識（医学）はハード分野、知恵（医療）はハードを応用したソフト分野で、人との信頼を築く人間的な分野といえるだろうか。

AI(人工知能)はハード分野をとうに超え、ソフト分野にも領域を広げている。いずれは大部分が AI に取って代わられる可能性はあるが、それでも人にしかできないところは残るはずだ。医療にかかわる方々には知恵をつかって人に接してほしいと願っている。